

送 辞

厳しい寒さも少しずつ和らぎ、徐々に春の訪れを感じる季節となりました。今日の佳き日に、新たな門出を迎えられる卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。晴れて作新学院大学を旅立たれる皆さまに在校生を代表し、お祝いの言葉を申し上げます。

皆さまは、この作新学院大学での四年間をどのように振り返っていらっしゃるでしょうか。日々の講義はもちろん、部活動やサークル活動、資格取得のための勉強や実習、就職活動、また、多くの友人や教職員との関わりの中で得た経験と十人十色の四年間であったことと思います。その中には、楽しかったこと、嬉しかったことだけではなく、苦しかったことや辛かったことなどマイナスに感じることもあったでしょう。昨年に続き、新型コロナウイルスの流行により、授業形態の多様化、各種イベントの中止、そして卒業式の簡素化など多くの影響がありました。皆さまの中には、入学時に思い描いたキャンパスライフを送ることができず、歯がゆい思いをされた方もいらっしゃるかと思います。とは言え、この4年間、皆さまは多くの人に支えられ、一方で多くの人を支えながら過ごしていらっしゃいました。

私たち在校生にとって、大学生活のさまざまな場面で皆さまの支えがありました。そんな皆さまが、ご卒業されるのを嬉しく思うと同時に大きな寂しさも感じております。学年は一つしか変わらないはずですが、その一年の差はとても大きく、皆さまのいない新年度四月からの大学生活を考えると不安もあります。ですが、今度は私たちが皆さまのように学校を支え、後輩に慕われる存在となれるよう精進いたします。

そして、皆さまがこの作新学院大学を卒業・修了したことを誇りに思っていただけよう、また、私たち自身が悔いのない大学生活を送ることができるよう、より一層の努力をいたします。

日々変化する情勢の中で、夢の実現に向けて進んでいくことは決して容易ではないと思います。しかし、この作新学院大学で得た喜び、苦悩、そのすべての経験がかけがえのない財産となるに違いありません。そして、進む道が違って、共に過ごした仲間の存在や思い出が皆さまの力になると信じております。

最後になりますが、常に私たちの前を歩き、道を切り開いてくださった皆さまに心から感謝とお祝いを申し上げるとともに、皆さまがこれから歩まれる道が明るいものでありますよう、心からお祈りし、在校生代表の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。



令和四年三月二十日
作新学院大学
在校生代表 長山萌花